

部会名：鋼橋の性能設計手法に関する検討部会			部会長：谷口 望	
会議名称	構成員数	開催回数	平均参加人数	備考 (内容など)
全体部会	27	2	25	講演会の開催+方針議論
幹事会	6	1	6	部会開始前の打合せ
W/G				現在なし
W/G				〃
W/G				〃
W/G				〃
部会主催の講演会、報告会および見学会				
開催日時	内容 (テーマ)			
<p>1. 活動報告の総括</p> <p>2019年10月より、正式な活動を開始した。計3回の全体部会を開催し、下記に示す新道路橋示方書に関する講演会を実施した。</p> <p>① 第1回 全体部会：【講演者】野上先生 「鋼橋の性能性能設計と構造合理化に関する話題」</p> <p>② 第2回 全体部会：【講演者】株式会社 長大 刑部様 「新・道路橋示方書について」</p> <p>③ 第3回 全体部会：【講演者】株式会社 横河ブリッジ 掘井様 「H29道示による合成桁の設計と非合成桁の照査」</p> <p>次回・次々回全体部会では、部会メンバーによる話題提供を予定している。</p>				
<p>2. 特別研究費の有無および“有”の場合その内容</p> <p>現在、申請の予定なし</p>				
<p>3. 報告書の作成時期および形態</p> <p>2021年3月末を目標に作成予定</p>				
<p>4. その他 (要望・連絡・外部発表実績等)</p> <p>現在、特になし</p>				

1. 活動方針

現況において、H29道示による実物件が少ない中で、実務者の不安・疑問点などを収集するだけでなく、下記に示す内容を実施することで、多面的に活動を行うものとする。

- ・新旧道示による設計結果の差異の検証を実施
- ・既に性能設計に基づく限界状態設計手法が用いられている鉄道橋設計との比較
- ・今後の改定に向けた課題の抽出など、

2. 具体的な活動計画

- ・新道示の改定ポイントの把握  
講師を招聘し講演会を実施、理解度に関するアンケートの実施
- ・新旧道示の比較  
限界状態設計法の理解と明確化
- ・部分係数決定法の検討  
部分係数の合理的な設定法について検討。東北大学の斉木先生に加入いただき検討予定
- ・新道示による試設計検討  
既出版の単純合成桁以外の構造に対する試設計
- ・鉄道標準と新道示の設計法比較  
両基準ともに限界状態設計法であるためそれぞれの基準の比較検証
- ・今後の道示に向けた提案  
新道示の疑問・課題の抽出、信頼性向上策の検討(耐荷性・経年変化への対応)

3. 特別研究費の有無（申請有りの場合はその時期、年額、研究目的等をご記入下さい）

現在、申請の予定なし

4. その他 部会運営上の問題や運営幹事会に対する要望、連絡事項等が有ればご記入ください

現在、特になし

鋼橋の性能設計手法に関する検討部会  
WG活動計画・報告表

当初計画： ■■■■■■  
実績と計画： ■■■■■■

活動テーマ

道示改定により導入された性能設計をベースとした限界状態設計法・部分係数設計法に関する理解度を深める

活動目標

新道示の理解度に関する実務者の現状を報告するとともに、様々な構造に対する試設計結果の例示、  
今後の道示改定に向けた意見提案書の作成など

活動報告

2019年10月より、正式な活動を開始

計3回の全体部会を開催し、部会外部より講師を招聘し、新道路橋示方書に関する講演会を実施

構成員数： R1.10～R2.3のWG開催回数： 3回 平均参加人数： 22名

	R1年度		R2年度		R3年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
情報共有等(全員)		■■■■■■■ ■■■■■■■	■■■■■■■			
実態調査(全員)			■■■■■■■	■■■■■■■		
試設計WG				■■■■■■■	■■■■■■■	■■■■■■■
部分係数WG				■■■■■■■	■■■■■■■	■■■■■■■
設計比較WG				■■■■■■■	■■■■■■■	■■■■■■■
報告書作成						■■■■■■■
報告書まとめ						■■■■■■■
全体部会開催		○R1.10.21○R2.02.20 ○R1.12.09				
WG開催						
備考						

現在